

## 蓄積されたデータとネットワークで 緻密で適切なサービス提供へと進化を見せる。

ばちんこ依存問題の相談と研究を行っているNPO法人 リカバリーサポート・ネットワークも、今年度で設立5年目となった。業界のさまざまな変化の中で着実にノウハウを重ね、対応力を身につけてきており、今、同法人は新たな方向へ歩みだそうとしている。

### 広がりをもせる相談窓口のネットワーク。

2010年度、NPO法人 リカバリーサポート・ネットワークへの相談件数は1,185件で前年度比でやや減少した。しかし、発行している情報誌「さくら通信」は、毎年50部ずつ発行部数が増え、今年度は650部を発行している。

同法人の代表で、医学博士の西村直之さんは、現在の状況について

「相談件数が減ったのは不況の影響だと思われ、潜在的ニーズが減ったわけではありません。『さくら通信』をPDFで受け取りホームページ上に公開する団体などもできていますので、実際に読んで読者数はもっと増えていると思います」と解説する。

全日遊連加盟のホールによるポスター掲示などの協力により、認知度は年々高まっている。ユーザーだけでなく、さまざまな企業や団体からの問い合わせなども増えてきた。西村さんはこうした機会をとりえ、ネットワークを広げているところだ。

これによって、日本各地の研究医療機関や相談窓口との関係が強化されてきた。

「これまでユーザーから相談を受けても適切な連絡先を伝えることができないケースもありましたが、相談者の住んでいる地域の身近な窓口を知らせることができるようになり、内容の濃い提案ができるようになってきました」と西村さん。

そうした中で、今西村さんが考えているのは、問題解決のための支援プログラムづくりである。さまざまな依存問

題を複合的に分析研究することで、いくつかのパターン分けを行い、それを相談員の育成につなげ、さらに質の高いサービス提供を目指すものだ。

「単に他の窓口につなげるだけではなく、蓄積したデータを元にした具体的な提案もできるようになると考えています」と将来的な抱負を語った。

### 大震災によるストレスが、依存症に作用する。

今、西村さんが懸念しているのは東日本大震災の影響である。震災によるストレスは人間に心理的な悪影響を及ぼす。

「これまでとは物事の見方が変わる可能性があります。現実からの逃避で、今までよりもギャンブルにのめり込む人もでてくるでしょう」

同法人では、『さくら通信』の特集で、「大震災とばちん

あなたの遊技は、度を越えたら危い。

パチンコがやめられない...  
どこに相談していいのかからなく...  
ひとりで悩まずにお電話ください。

パチンコは、  
適度に楽しむ  
遊びです。

ばちんこ依存問題相談機関  
特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク

リカバリーサポート・ネットワークは、パチンコホールの全国団体である全日遊連の支援により設立された非営利相談機関です。ばちんこ依存問題からの回復を支援するため、電話で無料相談を行っています。相談は匿名でお受けします。

相談窓口 050-3541-6420 (月～金(土日祝祭日除く)  
午前10:00～午後4:00)

ホームページ http://rsn-sakura.jp/

パチンコホールのトイレに掲示するよう依頼している「啓発・告知用ポスター」

こ依存」をテーマに考察した。この中で、震災前には依存していなかった人の中にも、ストレスによってパチンコにのめりこむ危険性があることを指摘している。当初は生活必需品や居場所の確保で忙しく余裕がないが、日常生活に戻ったときにストレスを感じるのだ。慣れない土地に転居した人や、ボランティアで現地に入った人たちにも同様にストレスがかかっており、のめりこんでしまう危険性がある。

一方、震災前からのめりこんでいた人たちは、ホールの閉鎖や営業時間の短縮などによって、一見問題が解消したかのように見える場合もあるが、実際はそうではないと警鐘を鳴らす。ギャンブルでできた負債を震災被害額に含めて処理できるかもしれない、というような都合のいい考えにとられるケースもある。そのためかえって深刻化することもある。

同法人では、こうした危険性について関係各省や自治体などに報告していく予定である。

また、被災者に直接的な支援も行うことにした。沖縄県にある同法人の事務所に付随する研修宿泊施設として使用している3DKのスペースを、緊急避難の滞在先として提供した。さらに同法人の相談員として雇用することも検討するという。

### 震災前にはのめりこみの問題がなかったユーザーに何が起きているのか

被災地の中心付近にいる場合	震災時のストレスケアの一つとして適度なパチンコ遊技は効果的。 避難所やライフラインが破壊された地域では、生活必需品や居場所の確保で忙しく、パチンコをする余裕がない。 日常生活に戻った時にストレスを感じ、パチンコにのめりこむ場合が考えられる。 強いストレスから、被災していない他のエリアと比較し、のめりこみのリスクは高い。
被災地以外にいる場合	ボランティアなどで現地入りした場合、ストレス解消行動としてパチンコにのめりこむ可能性がある。また、支援を終えた後も被災地で受けたストレスから、同様の可能性が考えられる。 被災者が地元を離れ長期的に避難生活が続いた場合、震災のショックに加え、慣れない土地への転居など、環境の変化からストレスが増加し、その解消行動としてパチンコに行く場合がある。
留意点	○生活が安定した後、パチンコの問題が新たに生まれる可能性がある ○震災のストレスから、今までパチンコをしなかった人もパチンコをするようになり、問題化する可能性がある

### 担当者より



これからも末永く、  
視野の広い活動を  
続けてください。

NPO法人  
リカバリーサポート・ネットワーク  
代表  
西村直之さん

助成という公的機関や専門機関が対象であることの多い中で、AJOSCの支援は、いろいろな面に目を向け、ずっと継続されています。これからは社会の可能性を追求して、視野の広い活動を続けていただきたいと思います。長い間ありがとうございました。

ところで、設立以来全日本社会貢献団体機構が全面的に支援してきた同法人を、2011年7月より遊技業界全体で支援することになり、機構から離れることになった。

「AJOSCの元で得たデータやノウハウ、ネットワークを駆使して、今後はより幅広く、緻密なサービス提供によって、健全な業界の発展に寄与していきたいと考えています」

西村さんはそのように決意を述べた。